



1 自己評価

I 評価結果

目標1「岡山県学力・学習状況調査（中1）の平均正答率で県平均を上回る」について

①校内研究の充実

- ・毎時の学習課題を明確にし、課題について「予想やその理由を書く」「授業のまとめを自分の言葉で書く」など、授業の中に「書くこと」が位置づけられた実践が行われるようになった。しかし、学力テストの結果からは、読解力を問う記述式の問題等に向上がみられなかった。
- ・年1回以上全員授業を公開し、指導案検討から授業反省まで全員参加を原則とし、KJ法の活用等、研究方法の工夫により自分化することができた。また、その際の講師招聘も教員の意識改革につながった。

②家庭学習の充実

- ・家庭学習やアウトメディアの重点的取組期間を中学校定期考査に合わせてブロック全体で取り組んだことが効果的だった。カード提出率が上がり、家族ぐるみの取組になってきた。
- ・宿題をしない児童はあまりいなくなり、「自主学習No.1」の掲示や表彰により、低学年も自主学習に取り組めだした。

③読書活動の充実

- ・学年の目あての設定や表彰により読書への意欲が高まった。また、アウトメディアによってできた時間を読書に充てるようにもなってきたが、高学年の読書内容のレベルアップが必要である。

目標2「保護者・地域との連絡を密にし、連携・支援体制を整える」について

①保護者・地域への情報発信

- ・学校便りを地域全戸配布用と保護者用に分けたことは、伝えたい内容を伝えたい相手に伝えるという目的からも1回の文章量からもよかった。

②学校支援地域本部事業の立ち上げ

- ・来年度から事業を本格的に実施できる準備がほぼ整った。

③PTAその他域組織との密接な連携

- ・講師を招き、学年の課題に応じた懇談会を設定することにより懇談会への参加が増え、保護者啓発につながった。
- ・今年度は保護司と学校との連絡会を設定する等、様々な機会を活用して学校の課題や取組についての説明や情報・意見交換を積極的に行い、支援を得ることができた。

II 分析・改善方策

目標1について

①反復学習や補充学習を充実し、基礎基本の徹底を図ると共に、活用型授業で思考・判断・表現力の向上をめざす。

- ・子どもの目が輝く体験的な学習活動を重視する。
- ・文章や資料を読んで自分の知識や経験と照らし合わせて自分なりの考えをまとめて書く、討論しながら考えを深め合うといった経験を積ませる。
- ・同一講師による継続的指導により教員の授業力を高める。

②基礎基本的学力向上のためにも学習意欲向上のためにも、活用型授業とつながった宿題を出す等、宿題の量と内容を工夫する。また、チェックカードはマンネリ化しないよう、児童の実態に合った目あてを設定する。

③今年度の取組を継続して読書量向上に努めつつ、質的向上に向け、奨励本リストを整備する。

目標2について

①来年度もあらゆる機会を活用して学校の取組状況を積極的に発信し、学校への理解・協力を得る。

②地域コーディネーターとの連絡を密にし、年度当初に予算案や活動計画を明確にしてボランティア活動を計画的かつ円滑に実施できるようにする。

③PTA活動の活性化を目ざし、懇談会の内容や持ち方をより工夫し、保護者との連携を一層深める。また、参観日や諸活動に地域組織の方々の参加を呼びかけ、交流の機会を増やしていく。

2 学校関係者評価委員名

角田 宏太 (学校評議員)	小西みゆき (民生主任児童委員)	高橋 泰博 (皿町内会長)
田渕 康春 (前PTA会長)	河本 寿夫 (PTA会長)	勢渡 圭子 (PTA副会長)
林 京子 (PTA副会長)	神谷 美由紀 (PTA副会長)	齋木 由美 (PTA副会長)

3 学校関係者評価

- ・ 学校は児童の実態を細かに分析し、授業改善やよい生活習慣の定着など、様々な努力や工夫をしている。地道な努力は必ず成果につながるので、取組の継続を望む。
- ・ 社会的自立に向け、学力向上は重要である。そのため、特に主体的に学習する力を伸ばすこと、地域人材の積極的活用に努めてほしい。

4 来年度の重点取組 (学校評価を踏まえた今後の方向性)

1 岡山県学力・学習状況調査 (中1) の平均正答率で県平均を上回る。

①授業研究を中心とした校内研修の充実

- ・ 同一講師による継続的指導により、活用型授業への転換を図る。
- ・ 各教科・領域で「体験活動」「書くこと」「討論すること」を重視し、言語活動を充実することにより、思考・判断・表現力の向上を図る。
- ・ 基礎基本の徹底を図るため、反復学習や補充学習の教材研究を深める。

②家庭学習の充実

- ・ 宿題の内容や量を工夫する。
- ・ 今年度の取組を継続して自主学習への意欲を高め、主体的に学習に取り組む力を伸ばす。

③読書活動の充実

- ・ 今年度の取組を継続し、読書習慣の定着と質的向上をめざす。

2 保護者・地域との連絡を密にし、連携・支援体制を整える。

①保護者・地域への情報発信

- ・ 来年度もあらゆる機会を活用して機を捉えた適切な情報発信をし、理解と協力を得る。

②学校支援地域連携本部事業の推進

- ・ 地域連携担当を中心に計画的に学校支援地域本部事業を推進し、地域の教育力を活用して学校の教育活動をより豊かなものにする。

③PTA・地域組織、関係機関との密接な連携

- ・ 中学校ブロックの小中・小小連携や保護者連携を一層推進し、アウトメディアや学習規律等、望ましい環境づくりを推進する。
- ・ 課題に応じてケース会議に招き、支援を得る。